

農村の 伝統祭事



表紙の写真：壬生の花田植え（広島県北広島町）
裏表紙の写真：御田植神幸式（熊本県阿蘇市）

目 次

1	伝統文化を守り、伝える	1
2	春の祭事	2
3	夏の祭事	15
4	秋の祭事	28
5	冬の祭事	41
6	伝統祭事マップ	54

伝統文化を守り、伝える

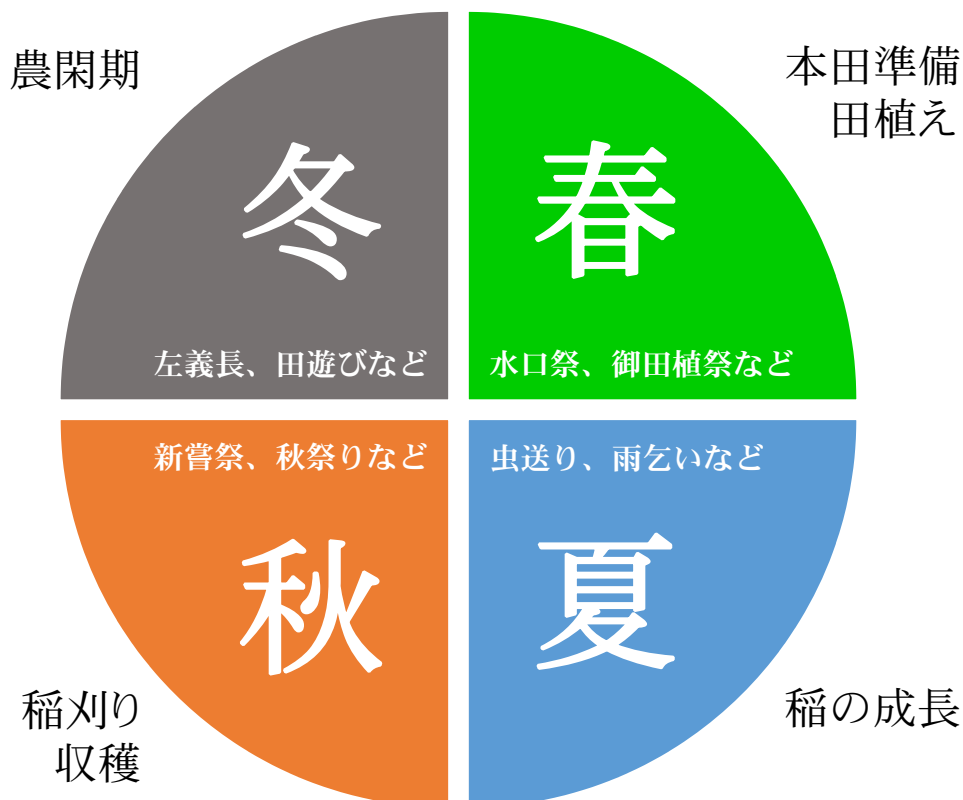
農業・農村は、私たちが生きていくのに必要な食料を供給する役割だけでなく、水田や畑での生産活動を通じて、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成などのさまざまな役割（多面的機能）を有しています。

その役割の一つに、伝統文化を継承する役割があります。農村では、長い歴史をもつ農業の営みを通じて、五穀豊穰を祈る芸能や祭り、農業上の技術、地域独自の知恵などの文化が守られ伝えられています。

農業と季節の祭事

日本の年中行事や祭りの多くは、稲の豊作を祈る・感謝するなど農耕の祭事に由来しています。これらは、都会では失われつつありますが、農村では、農業活動を通じて、それぞれの地域で、季節に応じた様々な伝統的な行事や祭などが受け継がれています。

この冊子では、各地で受け継がれている農耕にまつわる祭事を「春、夏、秋、冬」の季節別に紹介しています。都市に住む方々にも、このような農村のお祭りに触れて、日本の歴史や文化を感じとってもらえればと思います。





春は田植えの季節です。「田の神」を山から向かい入れ、
今年の豊作を祈る祭りが行われます。

代表的なお祭り

水口祭（みなくちさい）

苗代に粃を播く日に水口に土を盛り、季節の花や小枝を挿し、御神酒や
焼米などを供え、山の神に豊作を祈ります。

御田植祭

田植えの時期に早乙女などが実際に田んぼに入って田植えなどの農作業
を行い今年の農作業の無事や豊作を祈願します。

慶徳稲荷神社の御田植祭（福島県喜多方市）	3
近津神社の中田植（茨城県大子町）	4
間々田のじゃがまいた（栃木県小山市）	5
香取神宮の御田植祭（千葉県香取市）	6
千万町神楽（愛知県岡崎市）	7
多賀大社の御田植祭（滋賀県多賀町）	8
但馬久谷の菖蒲綱引き（兵庫県新温泉町）	9
布施神社のお田植祭（岡山県鏡野町）	10
壬生の花田植（広島県北広島町）	11
神田祭り（高知県高知市）	12
田代神社の御田祭（宮崎県美郷町）	13
せつぺとべ（鹿児島県日置市）	14

けいとくいなりじんじゃ おたうえまつり

慶徳稲荷神社の御田植祭

きたかた

【福島県喜多方市】



アクセス

JR磐越西線「喜多方駅」からタクシーで10分

会津縦貫北道路「喜多方IC」から約7km

問い合わせ

喜多方市文化課 ☎ 0241-24-5323

毎年半夏生の日（7月2日（閏年は7月1日））、慶徳稲荷神社で御田植祭が執り行われます。

御田植祭とは神田などで氏子が儀礼的な田植えを行って豊作を祈る祭りのことをいいます。会津地方の御田植祭は、近世以前に始まったものとしては北限にあたり、伊佐須美神社の御田植祭（会津美里町）とともに、「会津の御田植祭」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。

会津の御田植祭では「デコ人形（田植人形）」と呼ばれる独特の人形が登場します。これは田の神の依代（よりしろ）とも考えられ、田植えの際には田の畦に立てられます。

開催時期 7月2日（閏年は7月1日）

開催場所 慶徳稲荷神社
（喜多方市慶徳町豊岡字不動前3213）

周辺情報

喜多方ラーメンや蔵で知られている喜多方市は、会津盆地の北にあり、周辺の山々からの豊富な湧き水と良質な土壌により、豊かな農村地帯が広がっています。

平成18年に全国の市では初めて「グリーン・ツーリズムのまち」宣言をしています。ぜひ喜多方を訪れ、地域の自然や文化にふれ、地元の人々と交流を楽しんで下さい。

ちかつじんじゃ ちゅうたうえ 近津神社の中田植

だいごまち
【茨城県大子町】



中田植は、建久二年（1191年）より下野宮（しものみや）近津神社に伝わる御田植祭で、毎年夏至の日に行われます。夏至の日は昔の田植え時期の半ばにあたることから中田植と呼ばれています、

はじめに神殿で、修祓（しゅうばつ）、祝詞奏上、玉串奉てん、田植歌奉納などの神事を行った後、田植神事に入ります。神田にしめ縄が張られ、神官による修祓の後、太鼓、笛、鼓の奏楽に合わせて田植歌の唄われる中、十余名の早乙女によって田植えが行われます。

この日は神田の一部が一般の人にも開放され、訪れた人も自由に田植えに参加することができます。

開催場所	近津神社（大子町下野宮1626）
開催時期	毎年夏至の日
アクセス	JR水郡線「下野宮駅」より徒歩5分 常磐道「那珂IC」から車で約70分
問い合わせ	近津神社 ☎ 0295-72-8329 大子町観光協会 ☎ 0295-72-0285

祭りにあわせて、近津神社の境内では、参拝客と地元の方々との交流を兼ねた餅つきや中田植市（朝市）も開催されます。

前日には、境内で前夜祭として「宵灯籠」を開催しており、竹灯籠の柔らかい灯りの幻想的な景色を楽しめます。

ま ま だ 間々田のじゃがまいた

おやま
【栃木県小山市】



小山市の間々田八幡宮にて、江戸時代から続く奇祭「じゃがまいた」が毎年5月5日に行われます。

じゃがまいたは、田植えの時期を前にして五穀豊穡と疫病退散を祈願する伝統行事で、およそ400年ほど前に始まったとされています。当日は、7つの自治会から竹やわらなどで作った全長約15mの「蛇体」が間々田八幡宮に集合。お祓いの後、若者らに担がれた計7体の蛇体が境内の池に次々に飛び込んで水しぶきを上げます。

その後、蛇体は各地区に戻り、「じゃがまいた」のかけ声とともに町中を練り歩きます。

開催場所	間々田八幡宮（小山市間々田2330-1）
開催時期	毎年5月5日
アクセス	JR宇都宮線「間々田駅」西口から小山市コミュニティバス間々田線 または間々田東西線で約5分「間々田4丁目公民館」下車徒歩約5分 東北道「佐野藤岡IC」から約40分 （駐車場有り：間々田中学校：普通車約100台）
問い合わせ	間々田八幡宮 ☎ 0285-45-1280

周辺情報

間々田八幡宮の敷地は約2万坪におよび、一部は「間々田八幡公園」として整備されています。境内には、樹齢200年以上とされる「夫婦杉」があります。根本が一つで地上からは2本になっており、ほぼ同じ太さの2本の幹がまっすぐに伸びています。また、樹齢170年とされる市指定文化財の3本のコナラも見どころの一つです。

かとりじんぐう おたうえさい 香取神宮の御田植祭

かとり
【千葉県香取市】



その年の五穀豊穡を祈る香取神宮の御田植祭は、通称「かとりまち」ともいわれ、日本三大御田植祭の一つに数えられており、600年以上の歴史があるとされる伝統行事です。

御田植祭の1日目は耕田式で、拝殿前にて鎌・鍬・鋤・牛を使って田植え前の田んぼを耕す風景を模した儀式と、8人の児童による田舞や早乙女手代による植初め行事が奏されます。

2日目は田植式で、表参道を進む行列は、神職を先頭に肩車され大華傘で覆われた稚児や田舞の女子など供奉者約100名で御神田へ向かいます。御神田では、稚児に代わり田植えをする早乙女手代が田植え歌を唄いながら苗を植え、昔ながらの風景が残されています。

開催場所	香取神宮（香取市香取1697）
開催時期	毎年4月第1土曜日と翌日曜日
アクセス	JR成田線「香取駅」から徒歩25分 東関東道「佐原香取IC」から約1.6km
問い合わせ	香取神宮社務所 ☎ 0478-57-3211

香取神宮は、関東地方を中心に全国にある香取神社の総本社です。数多くの文化財を現代に伝えており、建造物では江戸期に建立された本殿、楼門が重要文化財に指定されています。

また、お隣の佐原地域には、中心部を流れる小野川沿いに江戸情緒が残る街並みが残っており「北総の小江戸」として有名です。

ぜまんじょかぐら 千万町神楽

おかざき
【愛知県岡崎市】



開催場所

八剣神社（岡崎市千万町町字宮西）

開催時期

例年4月第3日曜日

アクセス

新東名高速「岡崎東IC」より約20分

問い合わせ

（一社）岡崎市観光協会 ☎ 0564-64-1637

【写真提供：（一社）岡崎市観光協会】

千万町（ぜまんじょ）の神楽は、岡崎市千万町町の八剣（やつるぎ）神社で行われる祭礼で、毎年4月、豊作と悪魔祓いの願いを込めて神楽が奉納されます。

神楽は、嫁獅子神楽としては愛知県下で最も長い伝統があり、県の無形民俗文化財に指定されています。舞方・後持方・笛方・太鼓方・囃子方で構成され、褌（つま）模様に丸帯の女装をした獅子が御幣（ごへい）と鈴を持って、神前で「幕の舞」と「鈴の舞」を奉納します。

また、その後、町内の若宮社へ神輿渡御（みこしとぎょ）が行われ、若宮社南の広場でも舞が奉納されます。

周辺情報

岡崎市石原町にある「くらがり溪谷」は、本宮山県立自然公園の南西部に位置しており、春の新緑、夏の清流、秋の紅葉など四季折々の溪谷美が楽しめます。

溪谷沿いには、コテージやテント村、ログハウスやバーベキュー場なども整備されており、アウトドアスポットとなっています。

たがたいしゃ おたうえさい 多賀大社の御田植祭

たがちょう
【滋賀県多賀町】



滋賀県多賀町の多賀大社では、毎年6月第1日曜、『御田植祭』が斎行されます。

この祭りは、多賀大社の御神田で行われる御田植祭りで、豊年講から選ばれた早乙女約70名が昔ながらの菅笠、紅タスキの姿に扮し、その年一年の豊年満作を祈願して御神田に田植えを奉納します。あわせて、御田植え踊りや豊年太鼓踊りなども奉納されます。

多賀大社は、「お多賀さん」で親しまれている延命長寿・縁結びの神様であり、町内には、この多賀大社と縁の深い「胡宮（このみや）神社」「大瀧（おおたき）神社」があり、紅葉の名所でもあります。

開催場所 多賀大社（多賀町多賀604）

開催時期 毎年6月第1日曜日

アクセス 近江鉄道「多賀大社前駅」から徒歩10分

JR琵琶湖線「彦根駅」から湖国バス「国道多賀大社」から徒歩2分
名神高速「彦根IC」から車約10分

問い合わせ 多賀観光協会 ☎ 0749-48-1553

周辺情報

多賀町は、多賀大社を中心に門前町として栄えてきた歴史薫る町ですが、ロマン溢れる星空が観察出来る「アストロパーク天究館（てんきゅうかん）」、何万年もタイムスリップしながらアケボノゾウの化石に出逢える「あけぼのパーク多賀」、カルスト地帯にできた石灰岩の洞窟「河内の風穴」など史跡と自然の観光を満喫することができます。

たじまぐたに しょうぶつなひ 但馬久谷の菖蒲綱引き【兵庫県新温泉町】

しんおんせんちょう



兵庫県新温泉町の久谷地区では、毎年6月5日、豊作を祈願して「菖蒲綱引き」が行われます。

綱引きは、生の菖蒲やよもぎ、すすきを編みこんだ約40mの綱をおとな組と子ども組とに分かれて行います。勝負は、まず「石場つき唄」に合わせて綱を地面に打ちつけ、唄が終わってから「エイトー、エイトー」という掛け声をかけながら7回綱を引き合います。7回目の勝負を「納め綱」と呼び、この勝負でおとな組が勝つと、その年は豊作になるといわれています。江戸時代から日本海沿岸に伝わる綱引き行事の形態をよく伝える行事です。

開催場所 新温泉町久谷地区（新温泉町久谷）
開催時期 毎年6月5日 午後8時～
アクセス JR山陰本線「久谷駅」から徒歩5分
山陰近畿道浜坂道路「久斗IC」より車で5分
（久斗ICは豊岡方面出入口のみのハーフIC）
問い合わせ 浜坂先人記念館 ☎ 0796-82-4490

久谷地区のある新温泉町は、その名の通り温泉が有名で町内には湯村温泉、浜坂温泉、七釜温泉の3カ所で温泉が湧きだしています。

また、町内には、同じく久谷地区に伝わる風流踊り「ざんざか踊り」をはじめ、雨乞いに由来する「傘踊り」や歌舞伎の影響を強く受ける「はねそ踊り」などの民俗芸能が伝承されているほか、2018年には「北前船寄港地、船主集落」、2019年には「麒麟獅子舞」が日本遺産に認定されています。